



災害科学国際研究所・奈良文化財研究所・文化財防災センターの連携研究協定締結式とキックオフシンポジウムを開催しました（2023/2/24）

テーマ：東日本大震災、文理連携研究

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

2023年1月、東北大学災害科学国際研究所が、国立文化財機構奈良文化財研究所、国立文化財機構文化財防災センターと連携研究協定を締結したことをうけ、2月24日に締結式とのキックオフシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開Ⅵ—文化遺産を守り伝える新たな技術—」を開催しました。

今回の協定は、文理融合による防災・減災技術の研究を展開する災害科学国際研究所、文化財の学際的・総合的な調査研究を推進する奈良文化財研究所、自然災害から文化財を守るための体制構築のための事業を展開する文化財防災センターの3者が、これまで取り組んできた文化遺産を守るための最新の技術やデータを活用し、災害の実態解明や災害時の文化遺産の保全について連携研究を展開することを目的としています。締結式では、当研究所の今村文彦所長、丸谷浩明副所長、奈良文化財研究所の金田明大埋蔵文化財センター長、文化財防災センターの建石徹副センター長が出席し、協定文書を交換しました。

キックオフシンポジウムでは、奈良文化財研究所で構築している考古資料をデータベースとして歴史災害を可視化する手法、文化財防災センターで開発されているひかり拓本技術についての報告に加え、当研究所で取り組んでいる文化遺産防災マップと、これについて防災科学技術研究所の研究者による地理空間情報との重ね合わせや、岩手県立博物館と連携した文化遺産防災マップの活用に関する報告がおこなわれました。

シンポジウムはオンラインをあわせたハイブリット形式で実施し、約50名の方にご参加いただきました。



締結式の様子



キックオフシンポジウム